

板橋区男女平等に関する意識・実態調査報告書

— 概要版 —

この概要版は、平成 26 年6月から7月にかけて実施した「板橋区男女平等に関する意識・実態調査」の主なものをまとめたものです。この調査結果は、現行の第四次行動計画推進と平成 28 年度を初年度とする新たな行動計画の基礎資料として活用していきます。

調査の概要

	区 民	中学生	事業所	区職員
調査対象	区内在住の満20歳以上の区民	区内在住の中学生	区内の従業員5名以上の事業所	区職員（常勤職員）
対象数	2,000	1,000	1,000	400
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出		帝国データバンク事業所データ（平成26年6月度）から無作為抽出	職員配置データにより無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収			交換便
調査期間	平成26年6月25日（水）～7月17日（木）			
有効回収数	806	483	276	306
有効回収率	40.3%	48.3%	27.6%	76.5%

調査結果の留意点

- ◆ 集計数表の割合は、小数点第2位を四捨五入して算出しました。したがって、回答比率を合計しても、100%にならない場合があります。
- ◆ 回答比率（%）はその設問の回答者数を母数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがあります。
- ◆ クロス集計表では、第1位ならびに第2位の数値に以下の網掛けをして表示しています。

第1位：

31.2

 第2位：

15.6

※本書は概要版です。この調査結果の詳しい報告書は、区ホームページ、区政資料室、区立各図書館、男女社会参画課でご覧いただけます。

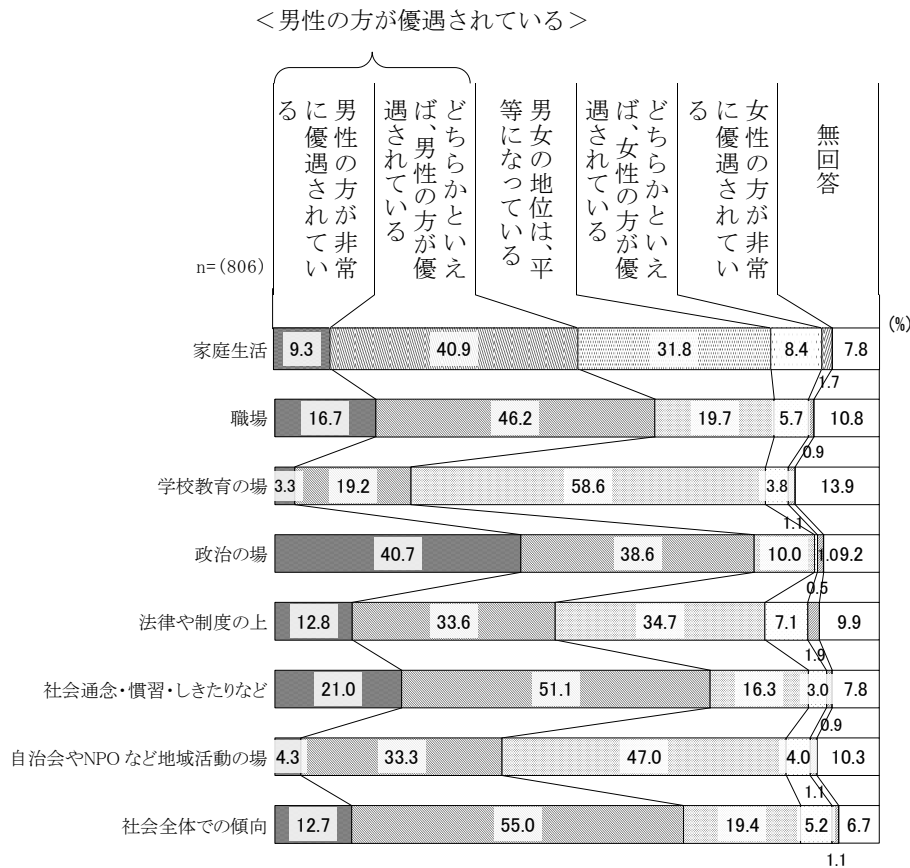
目次

区 民	3
1. 男女平等に関する意識	3
2. 子育て・教育について	6
3. 仕事・職場	7
4. 防災	8
5. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	9
6. ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントなど	11
7. 男女共同参画社会の実現に向けた取組み	12
中学生	13
1. 男だから、女だからという意識	13
2. 家庭での生活	14
3. 学校での生活	15
4. 男女の人権	16
5. 将来や職業	16
事業所	17
1. 女性の雇用管理状況等	17
2. 育児・介護支援制度	18
3. 働きながら育児・介護を行う従業員に対する両立支援	19
4. 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定状況	19
5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	21
回答者の属性	23

1. 男女平等に関する意識

◆ 各分野における男女の平等感（全体）

問1 あなたは、次にあげる分野の男女平等についてどのように感じていますか。



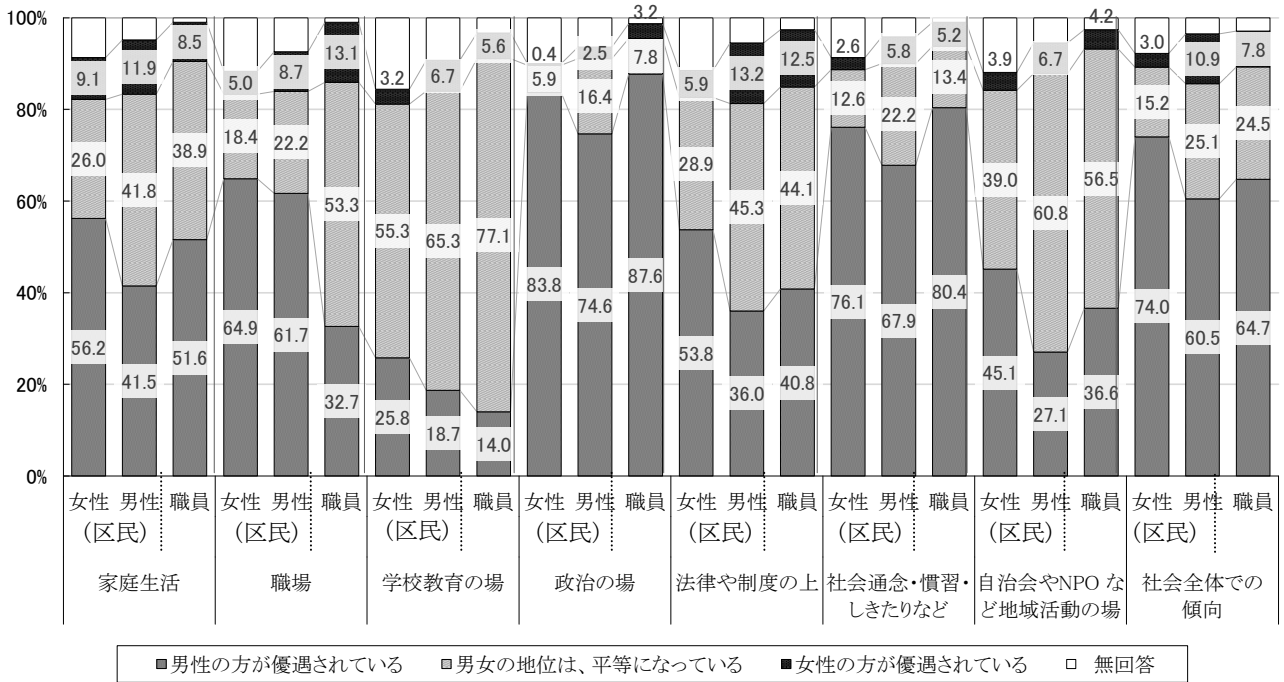
全体として「男性の方が優遇されている」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との合計）の割合が高いものは、「政治の場」（79.3%）、「社会通念・習慣・しきたり」（72.1%）、「職場」（62.9%）などとなっています。

一方、男女の地位が平等と感じる割合が高いものは、「学校教育の場」が58.6%で5割を超え、次いで「自治会やNPOなど地域活動の場」（47.0%）となっています。

◆ 各分野における男女の平等感（男女別、職員）

問1 あなたは、次にあげる分野の男女平等についてどのように感じていますか。

区民 女性(n=461) 男性(n=311) / 職員 (n=306)

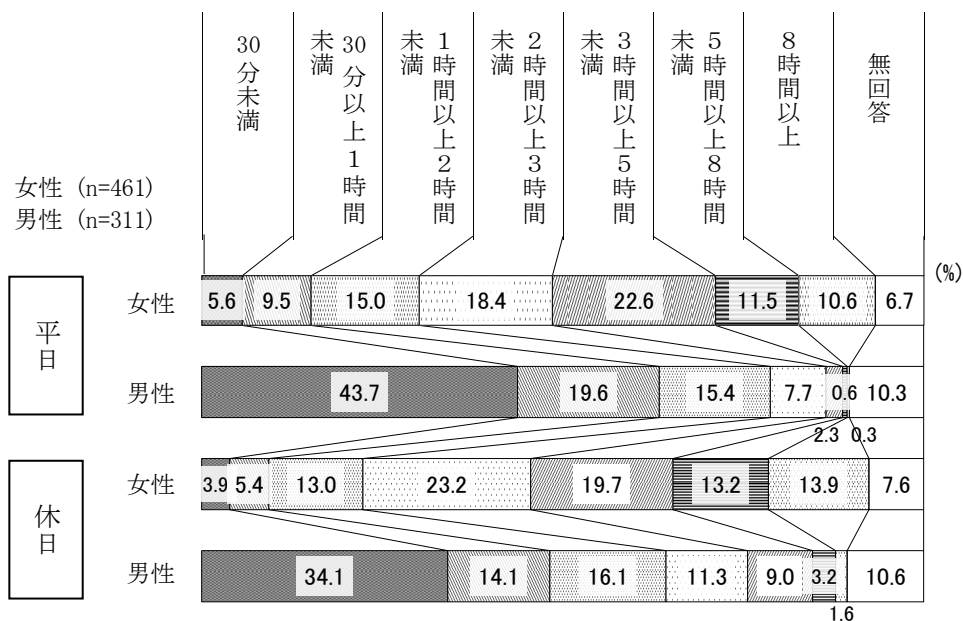


区民における男女別の「男性の方が優遇されている」を比較すると、「法律や制度の上」（女性が+17.8%）や「自治会やNPOなど地域活動の場」（女性が+18.0%）での差が大きくなっています。

職員では、「職場」で「男女の地位は、平等になっている」が高い一方、「男性の方が優遇されている」は、「政治の場」（87.6%）と「社会通念・慣習・しきたりなど」（80.4%）で高くなっています。

◆ 一日あたりの家事・育児に携わる時間

問3 あなたが家事・育児に携わる1日あたりの平均的な時間はどのくらいですか。
(それぞれ○は1つ)



平日では、女性は「3時間以上5時間未満」(22.6%)が最も高く、「2時間以上3時間未満」(18.4%)、「1時間以上2時間未満」(15.0%)と続き、これらで全体の半数以上を占めています。一方、男性は「30分未満」が43.7%で最も高く、「30分以上1時間未満」が19.6%と1時間未満で6割以上を占めています。

休日になると、女性は「2時間以上3時間未満」(23.2%)、「3時間以上5時間未満」(19.7%)と家事に携わる時間が減っています。一方、男性は、休日でも「30分未満」が34.1%で最も高くなっています。

女性の家事・育児に携わる時間が男性に比べて長い傾向にあることが明確にわかります。

2. 子育て・教育について

◆ 子育てに関する考え方

問5 子育てに関する次の考え方についてどう思いますか。(それぞれ○は1つ)

[上段：回答数、下段：割合(%)]

		調査数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえませんがそう思う	そう思わない	どちらともいえない	無回答
女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい	女性	461	70	165	72	81	52	21
		100.0	15.2	35.8	15.6	17.6	11.3	4.6
	男性	311	91	127	25	36	24	8
		100.0	29.3	40.8	8.0	11.6	7.7	2.6
女の子も経済的に自立できるように育てるのがよい	女性	461	257	169	10	5	5	15
		100.0	55.7	36.7	2.2	1.1	1.1	3.3
	男性	311	155	120	14	5	11	6
		100.0	49.8	38.6	4.5	1.6	3.5	1.9
男の子も家事ができるように育てるのがよい	女性	461	248	170	10	4	10	19
		100.0	53.8	36.9	2.2	0.9	2.2	4.1
	男性	311	147	124	20	6	8	6
		100.0	47.3	39.9	6.4	1.9	2.6	1.9
父親は積極的に子育てに関わるほうがよい	女性	461	270	148	13	2	9	19
		100.0	58.6	32.1	2.8	0.4	2.0	4.1
	男性	311	150	121	14	5	14	7
		100.0	48.2	38.9	4.5	1.6	4.5	2.3
子育てには地域社会の支援も必要である	女性	461	290	133	5	5	13	15
		100.0	62.9	28.9	1.1	1.1	2.8	3.3
	男性	311	158	120	5	12	9	7
		100.0	50.8	38.6	1.6	3.9	2.9	2.3

(%)

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	どちらともいえ ない	無回答
女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい						
区民	21.0	37.6	12.3	14.9	9.9	4.3
職員	11.1	36.6	17.0	17.3	14.7	3.3
女の子も経済的に自立できるように育てるのがよい						
区民	53.8	36.6	3.0	1.4	2.0	3.2
職員	62.7	31.0	0.3	0.7	2.3	2.9
男の子も家事ができるように育てるのがよい						
区民	51.6	37.3	3.7	1.5	2.2	3.6
職員	65.4	28.8	1.0	0.3	1.6	2.9
父親は積極的に子育てに関わるほうがよい						
区民	54.3	34.4	3.5	0.9	2.9	4.1
職員	70.9	23.9	-	0.3	2.3	2.6
子育てには地域社会の支援も必要である						
区民	58.2	32.3	1.2	2.1	2.9	3.3
職員	54.9	37.3	2.0	0.7	2.3	2.9

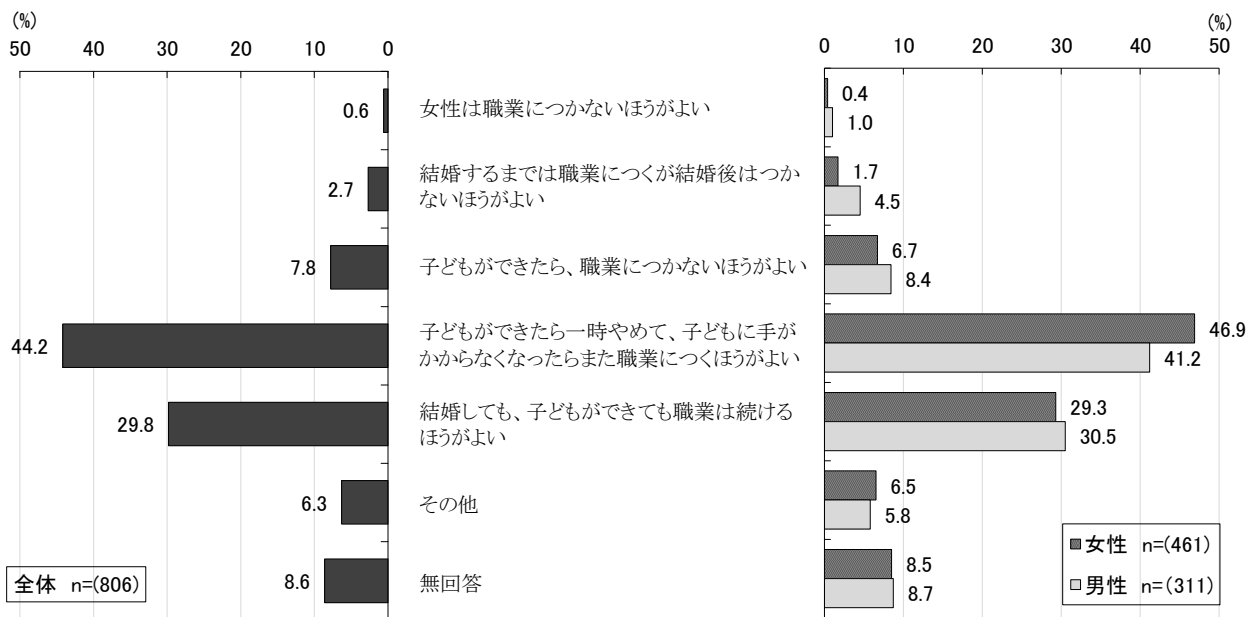
区民については、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい」では、女性が「どちらかといえばそう思う」(35.8%)に次いで、「そう思わない」(17.6%)が高くなっているのに対して、男性は「どちらかといえばそう思う」(40.8%)に次いで、「そう思う」(29.3%)となっています。それ以外の項目においては、いずれも女性が「そう思う」割合が男性を上回っており、特に「父親は積極的に子育てに関わるほうがよい」では、女性が男性を10.4ポイント上回っています。

職員と比較すると、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい」で、区民が職員を約10ポイント上回っています。

3. 仕事・職場

◆ 女性が働くことに対する意識

問9 女性が働くことについて、あなたの考えに最も近いものをお答えください。(○は1つ)



	女性に職業につかないほうがよい	結婚するまでは職業につくが結婚後はつかないほうがよい	子どもができれば、職業につかないほうがよい	子どもができれば一時やめて、子どもに手がかからなくなったらまた職業につくほうがよい	結婚しても、子どもができて職業は続けるほうがよい	その他	無回答
今回調査(回答数)	806	5	22	63	356	240	51
今回調査(%)	100.0	0.6	2.7	7.8	44.2	29.8	6.3
前回調査(%)		0.5	3.0	7.2	48.4	32.5	5.7
東京都(%)		1.4	5.4	8.8	34.5	44.4	3.2
内閣府(%)		3.4	5.6	10.0	30.8	47.5	1.4

※前回調査：平成21年度 板橋区男女平等に関する意識・実態調査

※内閣府：平成24年10月 男女共同参画社会に関する世論調査

※東京都：平成23年1月 男女平等参画に関する世論調査

女性が働くことに対する意識としては、「子どもができれば一時やめて、子どもに手がかからなくなったらまた職業につくほうがよい」(44.2%)が4割台半ばとなっており、次いで「結婚しても、子どもができて職業は続けるほうがよい」(29.8%)となっています。

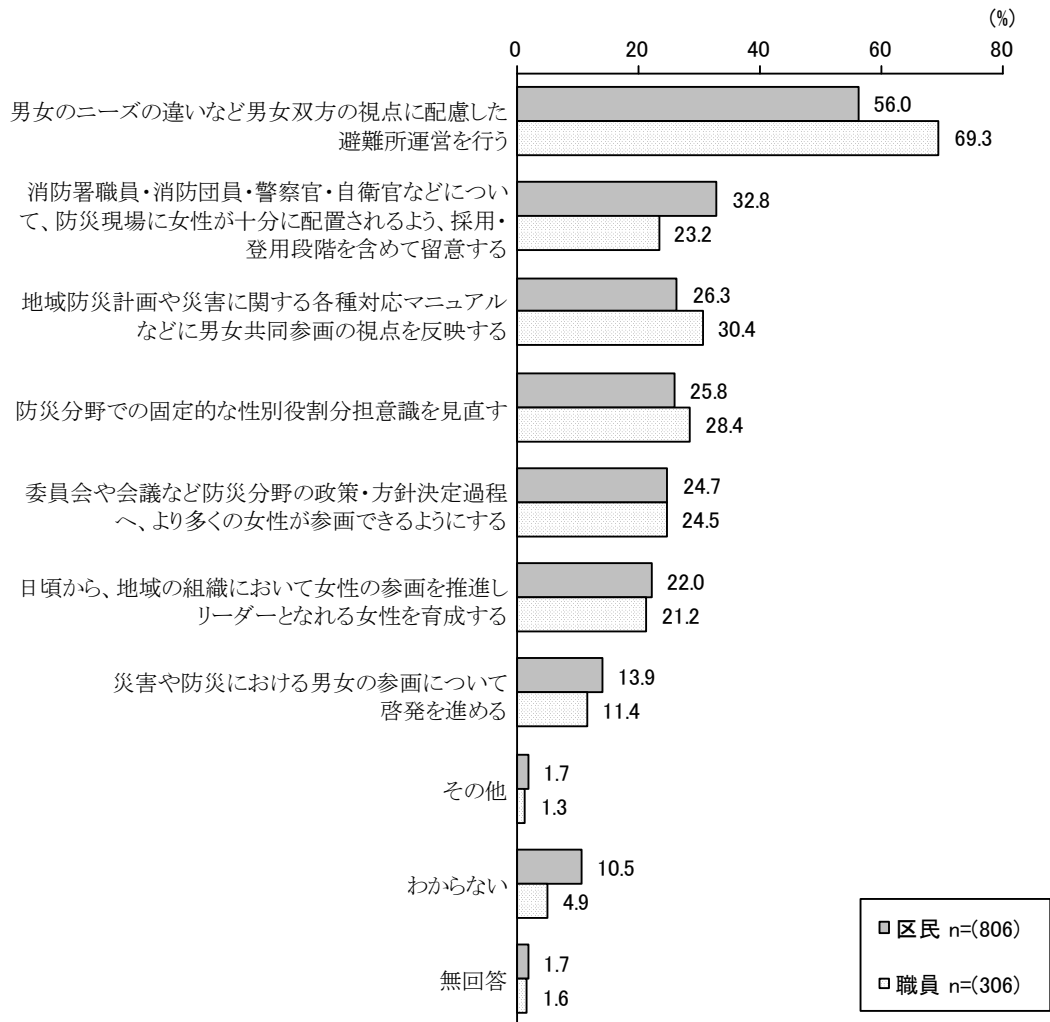
男女別に比較すると、「子どもができれば一時やめて、子どもに手がかからなくなったらまた職業につくほうがよい」で若干の差が見られます。

内閣府調査、東京都調査と比較すると、板橋区では、「子どもができれば一時やめて、子どもに手がかからなくなったらまた職業につくほうがよい」が10ポイント前後上回っています。

4. 防災

◆ 防災分野で男女共同参画をいかすために重要なこと

問13 あなたは、防災分野で男女共同参画の視点をいかすためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)



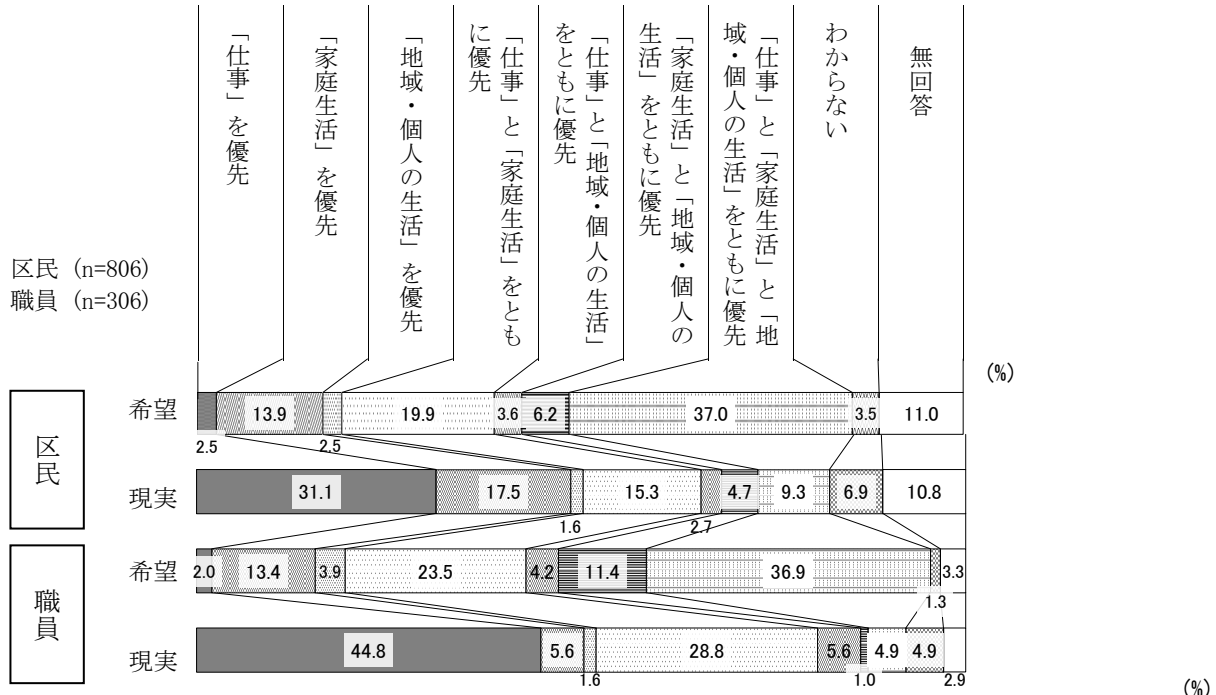
区民においては、防災分野で男女共同参画の視点をいかすために重要なこととして、「男女のニーズの違いなど男女双方の視点に配慮した避難所運営を行う」(56.0%)が5割を超え最も高く、次いで「消防署職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する」(32.8%)と続いています。

職員では、「男女のニーズの違いなど男女双方の視点に配慮した避難所運営を行う」が区民より高く、「消防署職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する」が若干低くなっています。

5. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

◆ 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の希望優先度・現実の優先度

問15 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望に最も近いものと、今の状況（現実）についてお答えください。なお、現在仕事をしていない方もお答えください。（○は「希望」「現実」それぞれ1つ）



		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	無回答
希望	東京都	4.1	14.1	9.0	24.7	7.7	18.2	20.6	1.6	-
	内閣府	9.8	27.6	2.4	30.5	3.5	9.0	15.9	1.4	-
現実	東京都	31.3	17.7	5.3	21.9	7.7	7.6	5.2	3.3	-
	内閣府	26.1	32.8	2.7	21.1	3.7	6.8	5.2	1.6	-

※内閣府：平成24年10月 男女共同参画社会に関する世論調査

※東京都：平成23年1月 男女平等参画に関する世論調査

区民が希望する仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度は、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」したいとする割合が37.0%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先」が19.9%となっています。

現実における優先度は、「仕事を優先」（31.1%）が3割強と最も高く、次いで「家庭生活を優先」しているとする割合が17.5%となっています。希望と現実における優先度の差が大きかったものは、「仕事を優先」（現実が希望より28.6ポイント高い）、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」（現実が希望より27.7ポイント低い）等で、仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したいが現実には仕事を優先している結果となっています。

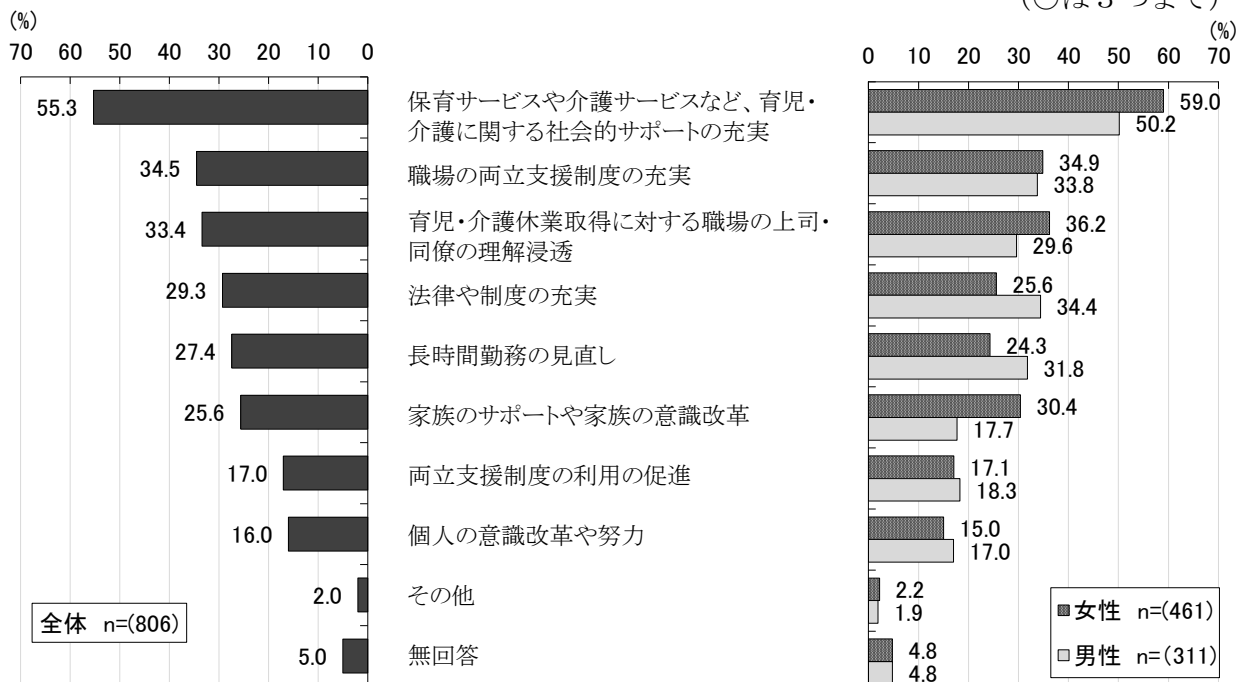
職員については、現実では「仕事を優先」（44.8%）、「仕事と家庭生活をともに優先」（28.8%）が区民より高くなっており、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」（4.9%）が低くなっています。

希望のレベルで、板橋区では「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が特に高くなっており、内閣府や東京都の調査と比較すると約20ポイント程度上回っています。一方、「仕事と家庭生活をともに優先」は、どちらの調査よりも板橋区は下回っています。

◆ 仕事と生活の調和を図るうえで重要なこと

問16 仕事と生活の調和を図るうえで、あなたが重要だと思うことをお答えください。

(○は3つまで)



[上段：回答数、下段：割合（%）]

年齢別	調査数	保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実	職場・介護休業取得に対する理解	職場の両立支援制度の充実	両立支援制度の利用の促進	法律や制度の充実	長時間勤務の見直し	家族のサポートや家族の意識改革	個人の意識改革や努力	その他	無回答
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
20～24歳	31	10	13	16	5	8	15	6	3	-	-
	100.0	32.3	41.9	51.6	16.1	25.8	48.4	19.4	9.7	-	-
25～29歳	37	19	15	11	5	14	17	4	7	-	-
	100.0	51.4	40.5	29.7	13.5	37.8	45.9	10.8	18.9	-	-
30～34歳	59	36	24	25	9	15	20	16	5	4	1
	100.0	61.0	40.7	42.4	15.3	25.4	33.9	27.1	8.5	6.8	1.7
35～39歳	80	44	36	32	10	20	25	20	17	1	-
	100.0	55.0	45.0	40.0	12.5	25.0	31.3	25.0	21.3	1.3	-
40～44歳	78	34	27	30	20	20	20	23	12	-	3
	100.0	43.6	34.6	38.5	25.6	25.6	25.6	29.5	15.4	-	3.8
45～49歳	57	27	20	16	6	24	13	14	12	2	1
	100.0	47.4	35.1	28.1	10.5	42.1	22.8	24.6	21.1	3.5	1.8
50～54歳	41	23	15	14	6	9	10	14	7	2	-
	100.0	56.1	36.6	34.1	14.6	22.0	24.4	34.1	17.1	4.9	-
55～59歳	48	34	10	15	8	15	16	12	11	1	1
	100.0	70.8	20.8	31.3	16.7	31.3	33.3	25.0	22.9	2.1	2.1
60～64歳	81	46	20	29	19	35	18	20	12	-	2
	100.0	56.8	24.7	35.8	23.5	43.2	22.2	24.7	14.8	-	2.5
65～69歳	100	65	33	40	21	27	22	24	18	2	4
	100.0	65.0	33.0	40.0	21.0	27.0	22.0	24.0	18.0	2.0	4.0
70歳以上	186	106	53	47	28	47	41	50	25	4	27
	100.0	57.0	28.5	25.3	15.1	25.3	22.0	26.9	13.4	2.2	14.5

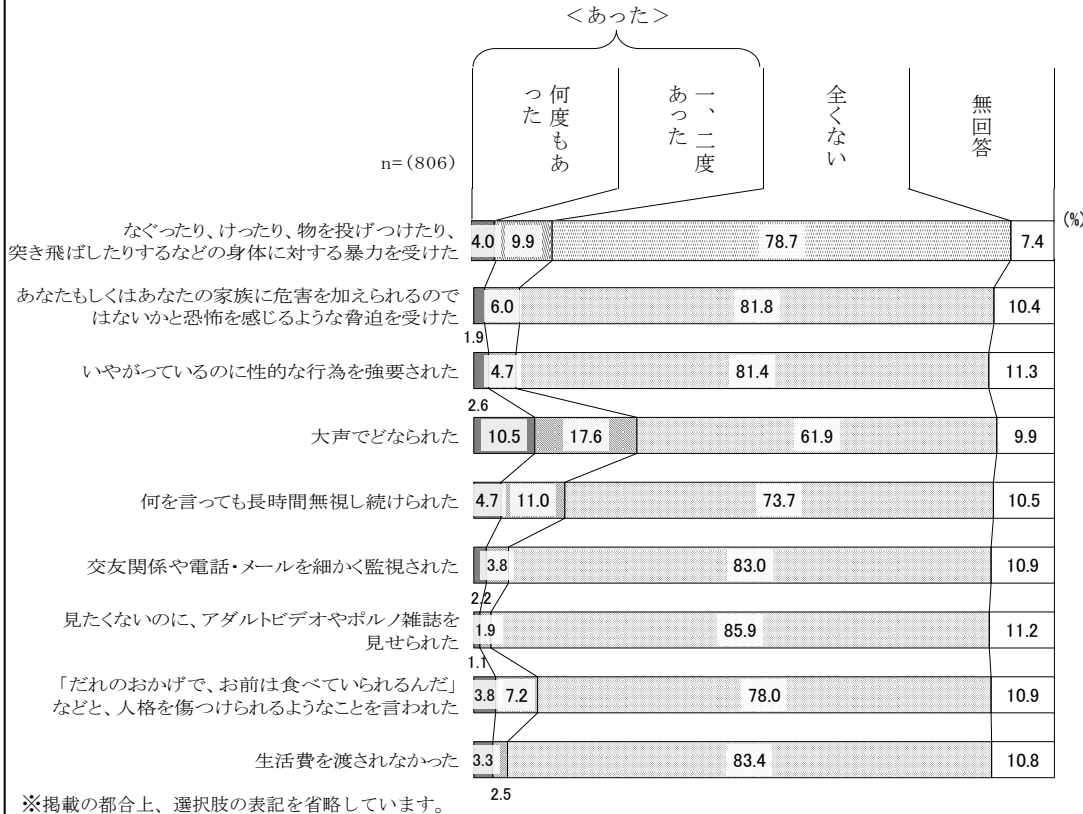
男女別では、男女ともに「保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実」が第1位ですが、第2位では、女性が「育児・介護休業取得に対する職場の上司・同僚の理解浸透」となっているのに対し、男性は「法律や制度の充実」と異なった結果になっています。

年齢別では、「保育サービスや介護サービスなど、育児・介護に関する社会的サポートの充実」の割合がほとんどの年齢で高くなっていますが、20代前半では「職場の両立支援制度の充実」が最も高くなっています。また、20代では「長時間勤務の見直し」も高くなっています。

6. ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメントなど

◆ ドメスティック・バイオレンスを受けた経験と意識

問17 あなたは、これまでにパートナー（配偶者や恋人など）から次のような行為をされたことがありますか。また、次のような行為はDVとされていますが、あなたはどのように思いますか。経験と意識について、それぞれお答えください。（それぞれ○は1つ）

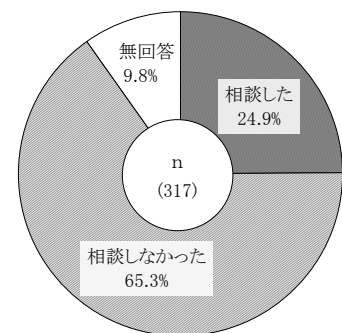


※掲載の都合上、選択肢の表記を省略しています。

DV 行為への意識	区民 (n=806)			職員 (n=306)		
	思う	思わない	無回答	思う	思わない	無回答
身体的暴力	61.8	10.2	28.0	84.6	2.9	12.4
恐怖を感じる脅迫	57.8	10.3	31.9	83.3	3.9	12.7
性的行為強要	57.2	11.4	31.4	83.3	3.6	13.1
大声でどなる	37.8	32.4	29.8	55.6	32.4	12.1
長時間無視	36.0	32.4	31.6	57.8	29.7	12.4
交友関係の監視	39.3	28.5	32.1	61.1	24.2	14.7
見たくないのにポルノ雑誌を見せられる	43.8	23.8	32.4	72.5	13.4	14.1
人格を傷つける言動	47.0	21.6	31.4	73.5	12.4	14.1
生活費を渡さない	45.3	22.1	32.6	70.3	16.3	13.4

◆ DV を受けたことによる相談の有無

問17-1 <あった>と回答した方は、そのような行為を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○は1つ）



ドメスティック・バイオレンスを受けた経験の有無については、「大声でどなられた経験」以外の項目で「まったくない」が7割以上を占めています。《あった》（「何度もあった」と「1、2度あった」との合計）とする割合が高いものは、「大声でどなられた経験」（28.1%）、「長時間無視し続けられた経験」（15.7%）などとなっています。

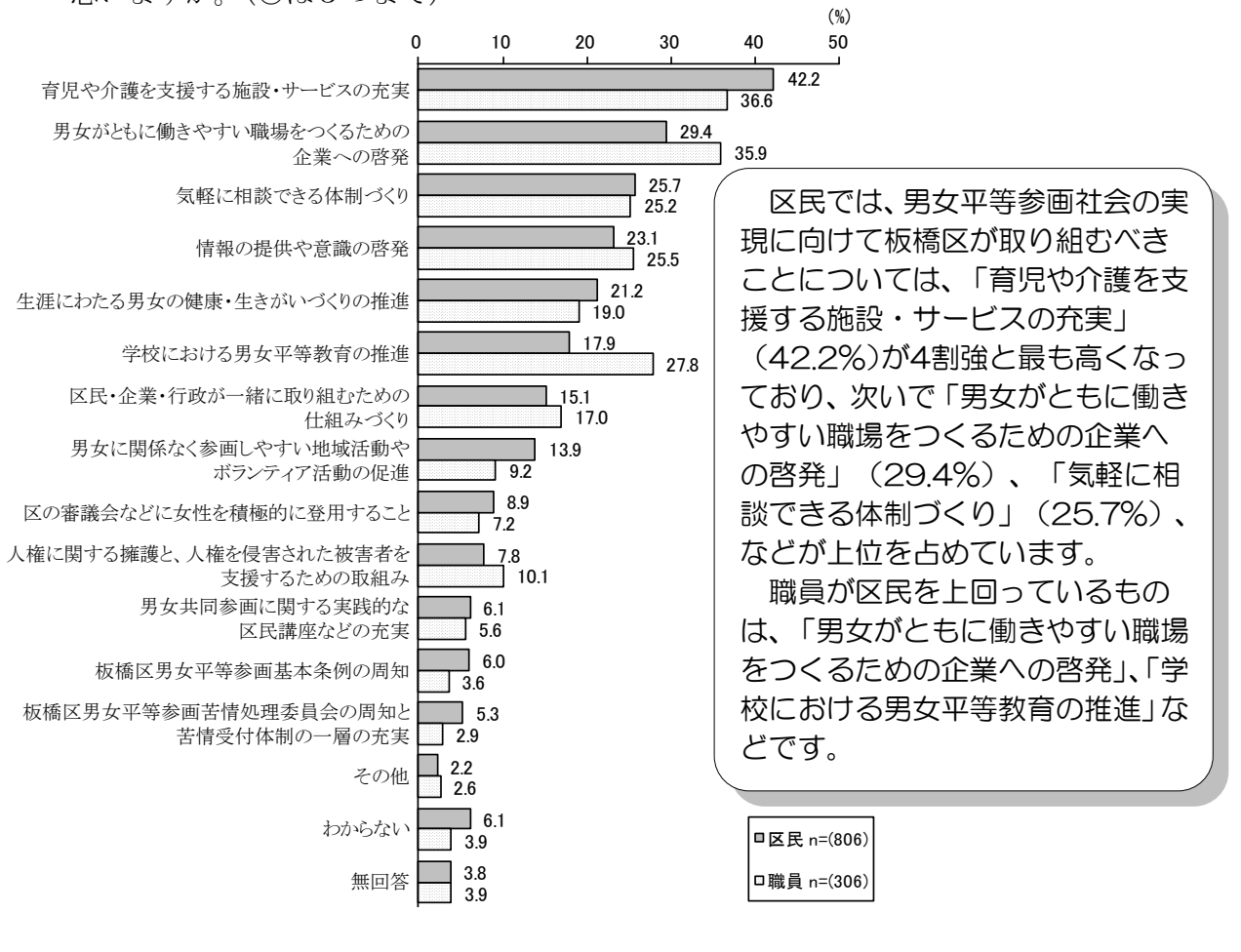
DV行為に対する意識では「思う」が、すべての選択肢で職員が区民を上回っています。

いずれかの行為を受けたことがあると答えた方に、相談の有無をたずねたところ「相談しなかった」（65.3%）が6割台半ばとなっています。

7. 男女共同参画社会の実現に向けた取り組み

◆ 男女共同参画社会の実現に向けて今後区が力を入れること

問21 男女共同参画社会の実現に向けて、今後、板橋区はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

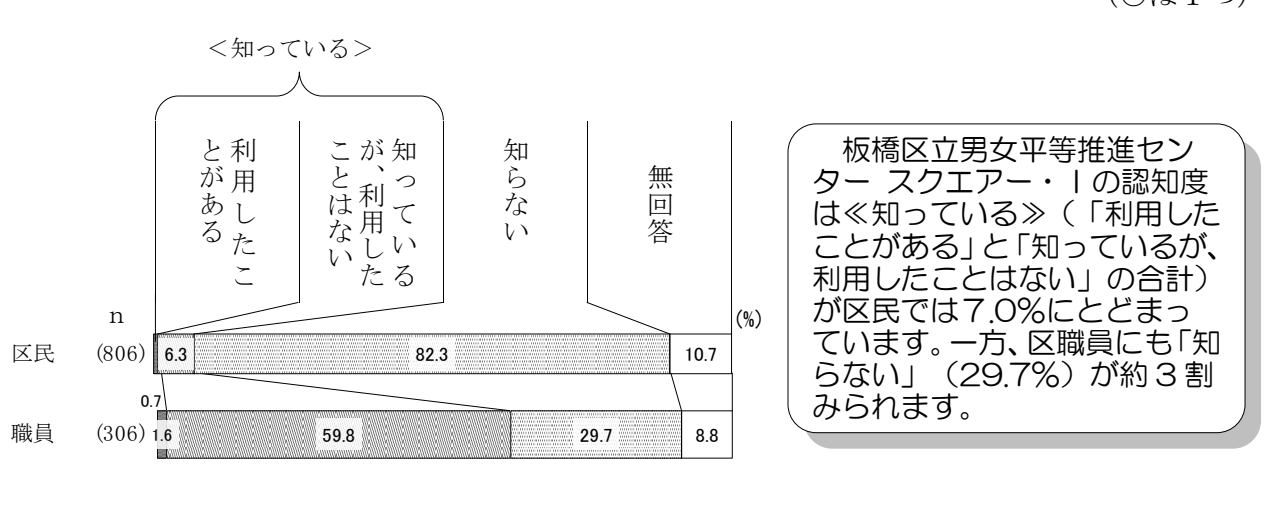


区民では、男女平等参画社会の実現に向けて板橋区が取り組むべきことについては、「育児や介護を支援する施設・サービスの充実」(42.2%)が4割強と最も高くなっており、次いで「男女がともに働きやすい職場をつくるための企業への啓発」(29.4%)、「気軽に相談できる体制づくり」(25.7%)、などが上位を占めています。

職員が区民を上回っているものは、「男女がともに働きやすい職場をつくるための企業への啓発」、「学校における男女平等教育の推進」などです。

◆ 板橋区立男女平等推進センター スクエア・I の認知度

問22 あなたは板橋区立男女平等推進センター スクエア・I (あい) をご存じですか。(〇は1つ)

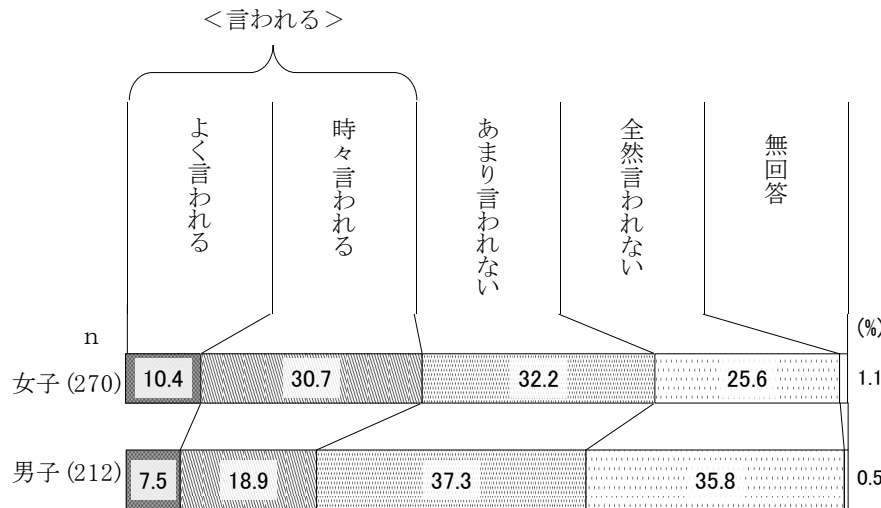


板橋区立男女平等推進センター スクエア・I の認知度は「知っている」(「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」の合計)が区民では7.0%にとどまっています。一方、区職員にも「知らない」(29.7%)が約3割みられます。

1. 男だから、女だからという意識

◆ 「男だから～、女だから～」と言われたことの有無

問7 あなたは、今までに家族やまわりの人から、「男だから〇〇しなさい」や「女だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。(〇印は1つ)



「男だから～、女だから～」と言われたことの有無については、「よく言われる」と「時々言われる」を合わせた《言われる》人の割合は、女子の方が14.7ポイント上回っています。

◆ 言われた内容

問7-2 《言われる》と回答した方は、どのようなことについて言われましたか。(あてはまるものすべてに〇印)

[上段：回答数、下段：割合(%)]

	調査数	言葉づかい	服装・身だしなみ	お手伝い	食事のマナー	勉強	スポーツ	友達関係	泣いたこと	家に帰る時間	その他
女子	111	58	62	48	35	12	2	7	4	18	7
	100.0	52.3	55.9	43.2	31.5	10.8	1.8	6.3	3.6	16.2	6.3
男子	56	10	8	17	8	17	16	8	14	2	8
	100.0	17.9	14.3	30.4	14.3	30.4	28.6	14.3	25.0	3.6	14.3

「言葉づかい」、「服装・身だしなみ」、「食事のマナー」、「家に帰る時間」で、女子の方が男子を倍以上上回っています。一方、「勉強」、「スポーツ」、「友達関係」、「泣いたこと」では、男子の方が女子を倍以上上回っています。

2. 家庭での生活

◆ 家庭での手伝い、身のまわりのこと

問9 あなたは、家庭で次のような手伝いや自分の身のまわりのことをしていますか。次の(1)～(6)についてそれぞれ1つ選んで、番号に○印をつけてください。

[上段：回答数、下段：割合(%)]

		調査数	よくしている	ときどきしている	していない	無回答
食事の支度や後片付け	女子	270 100.0	97 35.9	133 49.3	36 13.3	4 1.5
	男子	212 100.0	73 34.4	96 45.3	43 20.3	-
家の中や庭のそうじ	女子	270 100.0	16 5.9	128 47.4	120 44.4	6 2.2
	男子	212 100.0	19 9.0	90 42.5	101 47.6	2 0.9
洗たくやアイロンがけ	女子	270 100.0	16 5.9	105 38.9	142 52.6	7 2.6
	男子	212 100.0	7 3.3	58 27.4	145 68.4	2 0.9
お風呂あらい	女子	270 100.0	51 18.9	106 39.3	109 40.4	4 1.5
	男子	212 100.0	41 19.3	92 43.4	78 36.8	1 0.5
自分の部屋の片づけ	女子	270 100.0	73 27.0	141 52.2	49 18.1	7 2.6
	男子	212 100.0	56 26.4	118 55.7	37 17.5	1 0.5
その他	女子	270 100.0	30 11.1	26 9.6	16 5.9	198 73.3
	男子	212 100.0	24 11.3	15 7.1	12 5.7	161 75.9

家庭での手伝いや自分の身のまわりのことをしているかをきいたところ、「食事の支度や後片付け」、「自分の部屋の片づけ」はしている傾向がみられ、「洗たくやアイロンがけ」はしていないが高くなっています。男女別では、大きな差はみられません。

◆ 家事を担う人

問10 あなたは、家庭で、食事の支度やそうじ、洗たくのような家事は、男の人がするほうがよいと思いますか、それとも女の人がするほうがよいと思いますか。(○印は1つ)

[上段：回答数、下段：割合(%)]

	調査数	よ男の いの人 が主に するの が	よ女の いの人 が主に するの が	し男 ての す人 ると の女 がの 人 で 協 力	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
女子	270 100.0	1 0.4	41 15.2	195 72.2	22 8.1	8 3.0	3 1.1
	212 100.0	4 1.9	30 14.2	142 67.0	27 12.7	9 4.2	-

家庭での家事は、男の人がするほうがよいか、女の人がするほうがよいかをきいたところ、「男の人と女の人で協力してするのがよい」(70.0%)が男女とも7割前後と最も高くなっており、男女別では、大きな差はみられません。

3. 学校での生活

◆ クラス、学校での役割分担

問11 あなたは、クラスまたは学校などで次のとき、男子と女子ではどちらの方が向いていると思いますか。次の(1)～(7)についてそれぞれ1つ選んで、番号に○印をつけてください。

[上段：回答数、下段：割合(%)]

		調査数	男子の方が向いている	のどち 方が 向か いと いう と 男 子	女子の方が向いている	のどち 方が 向か いと いう と 女 子	わからない	無回答
学級委員・生徒会長	女子	270 100.0	23 8.5	52 19.3	60 22.2	62 23.0	70 25.9	3 1.1
	男子	212 100.0	43 20.3	57 26.9	39 18.4	21 9.9	51 24.1	1 0.5
文化祭や体育祭の時中心になって意見を述べる	女子	270 100.0	43 15.9	95 35.2	37 13.7	36 13.3	56 20.7	3 1.1
	男子	212 100.0	67 31.6	51 24.1	14 6.6	29 13.7	50 23.6	1 0.5
行事前の資料づくりや会場準備	女子	270 100.0	21 7.8	41 15.2	62 23.0	93 34.4	50 18.5	3 1.1
	男子	212 100.0	25 11.8	32 15.1	54 25.5	57 26.9	43 20.3	1 0.5
行事後の後片づけや清そう	女子	270 100.0	25 9.3	47 17.4	54 20.0	71 26.3	69 25.6	4 1.5
	男子	212 100.0	30 14.2	42 19.8	31 14.6	42 19.8	66 31.1	1 0.5
合奏・合唱の指揮者	女子	270 100.0	32 11.9	42 15.6	66 24.4	70 25.9	57 21.1	3 1.1
	男子	212 100.0	28 13.2	37 17.5	56 26.4	42 19.8	48 22.6	1 0.5
調理実習のリーダー的な存在	女子	270 100.0	4 1.5	3 1.1	135 50.0	93 34.4	29 10.7	6 2.2
	男子	212 100.0	8 3.8	12 5.7	103 48.6	51 24.1	37 17.5	1 0.5
重い荷物を運ぶ	女子	270 100.0	184 68.1	61 22.6	1 0.4	-	21 7.8	3 1.1
	男子	212 100.0	175 82.5	28 13.2	-	1 0.5	7 3.3	1 0.5

学校生活での役割や仕事について、男子と女子ではどちらの方が向いていると思うかきいたところ、「文化祭や体育祭の時中心になって意見を述べる」と「重い荷物を運ぶ」では男子の方が向いているという割合が高く、「行事前の資料づくりや会場準備」、「合奏・合唱の指揮者」、「調理実習のリーダー的な存在」では、女子の方が向いているという割合が高くなっています。

4. 男女の人権

◆ デートDVとの関係の有無

問14 あなたは「デートDV」を自分に関係があることだと思いますか。(○印は1つ)

[上段：回答数、下段：割合(%)]

	調査数	とても身近なことだと思う	あまり身近なこととは思わない	自分には全く関係ない	無回答
全体	483 100.0	19 3.9	176 36.4	265 54.9	23 4.8
女子	270 100.0	17 6.3	120 44.4	124 45.9	9 3.3
男子	212 100.0	2 0.9	56 26.4	140 66.0	14 6.6

デートDVを自分に関係があることだと思うかをきいたところ、「自分には全く関係ないことだと思う」(54.9%)、「あまり身近なこととは思わない」(36.4%)を合わせると、9割強がデートDVとの関係は薄いと感じています。デートDVを「とても身近なことだと思う」女子は6.3%となっており、男子の0.9%と比べ高くなっています。

5. 将来や職業

◆ どの教育段階まで勉強をしたいか

問15 あなたはどのくらいまで勉強をしたいと思いますか。(○印は1つ)

※区民の間7 お子さんに受けさせたい教育段階との比較

[上段：回答数、下段：割合(%)]

		調査数	中学校まで	高等学校まで	専門学校・各種学校まで	短期大学・高等専門学校まで	4年制大学まで	大学院まで	わからない	無回答
区民	女の子	806 100	3 0.4	28 3.5	46 5.7	76 9.4	512 63.5	34 4.2	62 7.7	45 5.6
	男の子	806 100	3 0.4	27 3.3	36 4.5	22 2.7	569 70.6	47 5.8	56 6.9	46 5.7
中学生	女子	270 100.0	2 0.7	42 15.6	42 15.6	15 5.6	115 42.6	31 11.5	20 7.4	3 1.1
	男子	212 100.0	4 1.9	32 15.1	18 8.5	6 2.8	107 50.5	31 14.6	13 6.1	1 0.5

あなたはどのくらいまで勉強をしたいと思うかをきいたところ、「4年制大学まで」が最も多くなっていて、区民の結果と中学生の結果の1位は同じでした。

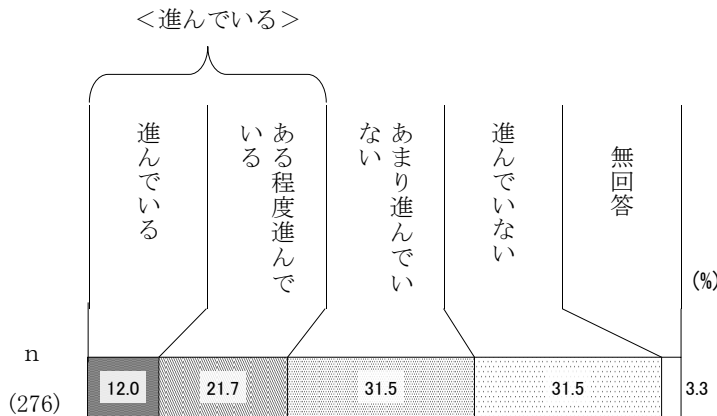
中学生で2位の「高等学校まで」については、区民では低い結果となっています。

中学生で男女差がみられたのは、「専門学校・各種学校まで」、「短期大学・高等専門学校まで」で女子の方が男子より割合が高くなっています。

1. 女性の雇用管理状況等

◆ 女性が活躍するための取組み・進み具合

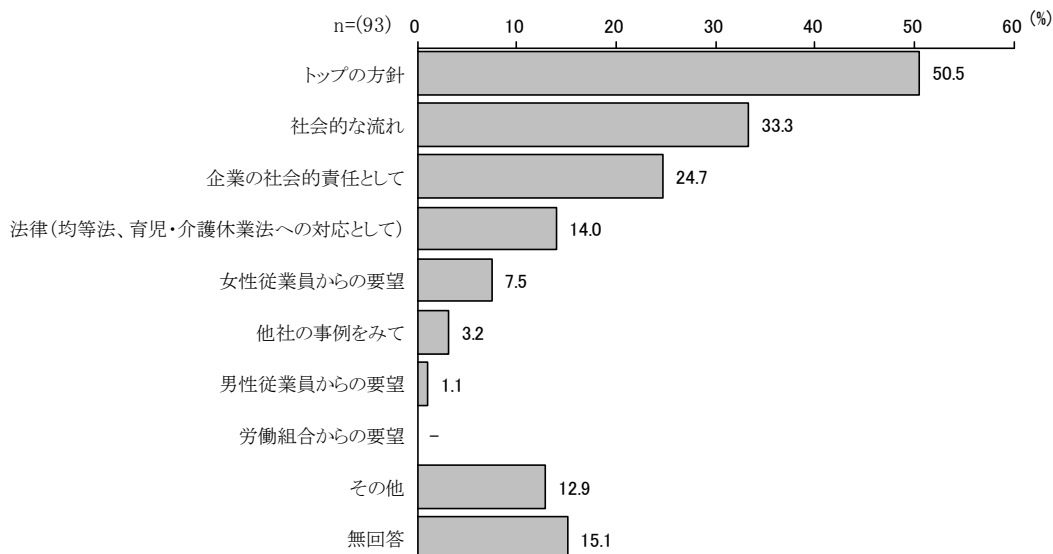
問3 貴事業所では、女性が活躍するための取組みが進んでいると思いますか。(○は1つ)



女性が活躍するための取組みは、「進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせた<<進んでいる>>は33.7%にとどまっております。取組みが進んでいない状況がみられます。

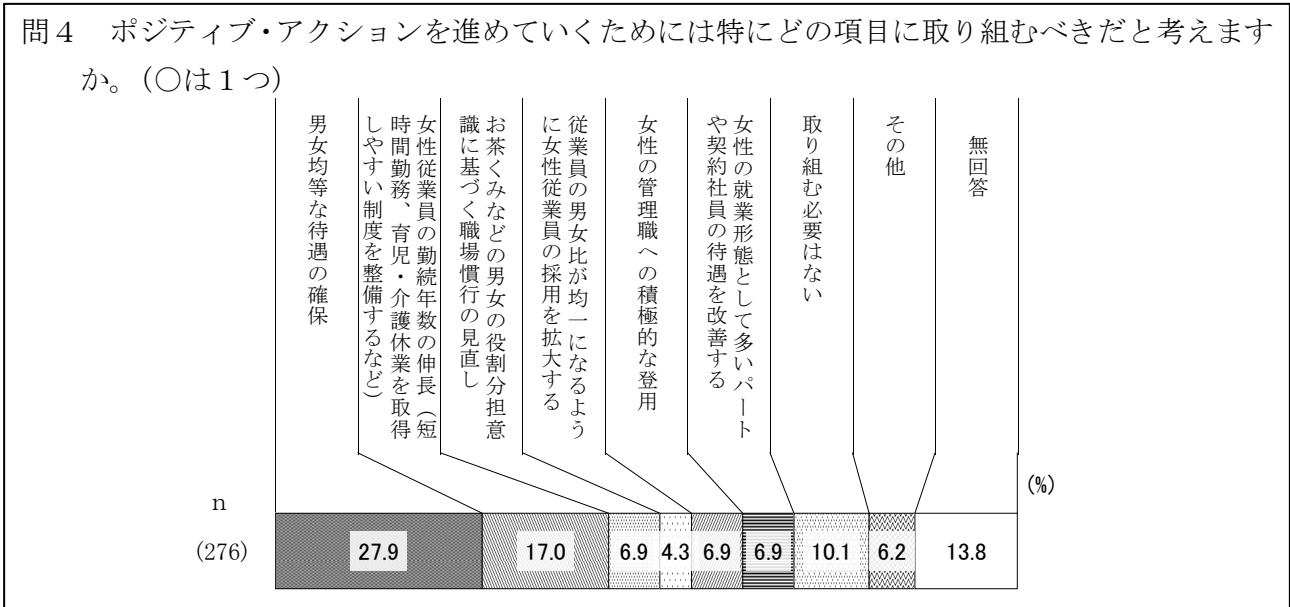
◆ 取組みを実施したきっかけ

問3-3 (問3で「1」もしくは「2」と答えた事業所に) 貴事業所が取組みを実施したきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



問3で女性が活躍するための取組みが「進んでいる」、「ある程度進んでいる」と回答した事業所に取組みを実施したきっかけをたずねたところ、「トップの方針」(50.5%)が半数を超えており、次いで「社会的な流れ」(33.3%)、「企業の社会的責任として」(24.7%)などとなっています。

◆ ポジティブ・アクションを進めていくために取り組むべき項目



ポジティブ・アクションを進めていくために取り組むべき項目としては、「男女均等な待遇の確保」(27.9%)が約3割と比較的高くなっています。

【職員】

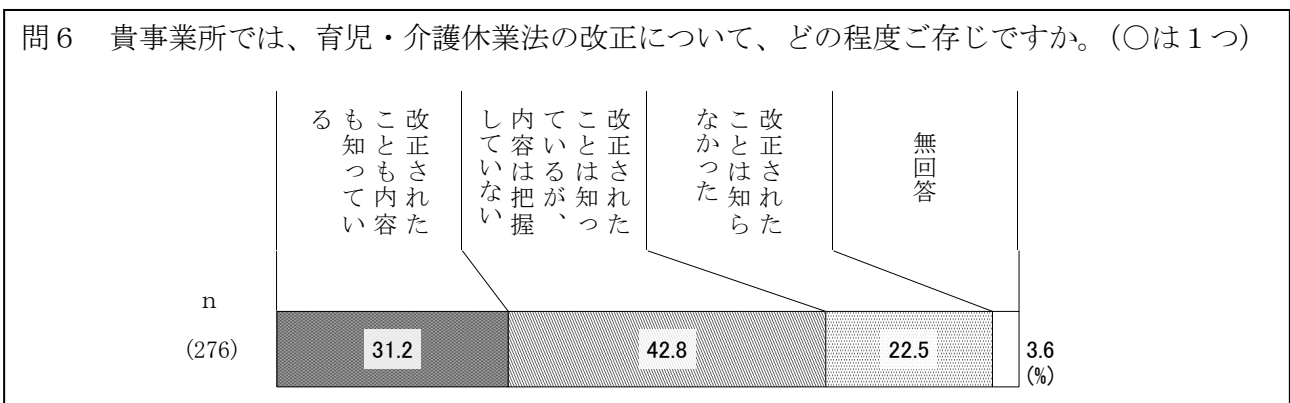
問13 女性管理職を増やすためには、どのような対策が効果的だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

[上段：回答数、下段：割合(%)]

調査数	女性職員の指導力や総合的な能力を積極的に育成する	女性職員の業務の中で、断片的に育成する	研修などで、女性職員を積極的に育成する	昇任試験を受験できるような制度にする	育児・介護休業期間中においても試験を受験できるようにする	女性の受験への機運を高めるために、女性職員を支援するネット	管理職の合理的な実情を考慮し、そのあり方を検討する	職員の意識改革	その他	無回答
306	95	85	63	64	101	118	32	24		
100.0	31.0	27.8	20.6	20.9	33.0	38.6	10.5	7.8		

2. 育児・介護支援制度

◆ 育児・介護休業法の改正についての認知度

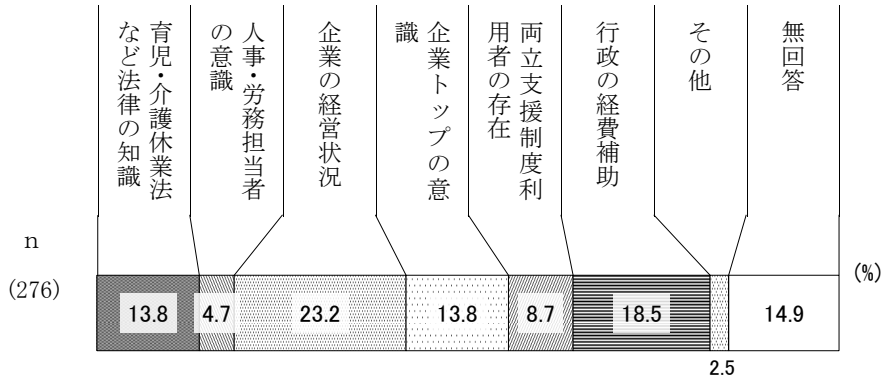


育児・介護休業法の改正についての認知度は、「改正されたことも内容も知っている」(31.2%)が3割強となっています。「改正されたことは知っているが、内容は把握していない」(42.8%)を合わせると、改正自体の認知度は74.0%と高くなっています。

3. 働きながら育児・介護を行う従業員に対する両立支援

◆ 両立支援を設ける上で一番重要なこと

問17 貴事業所において、今までにあげた両立支援制度を設けるうえで、一番重要なことはどのようなことだと思いますか。(〇は1つ)

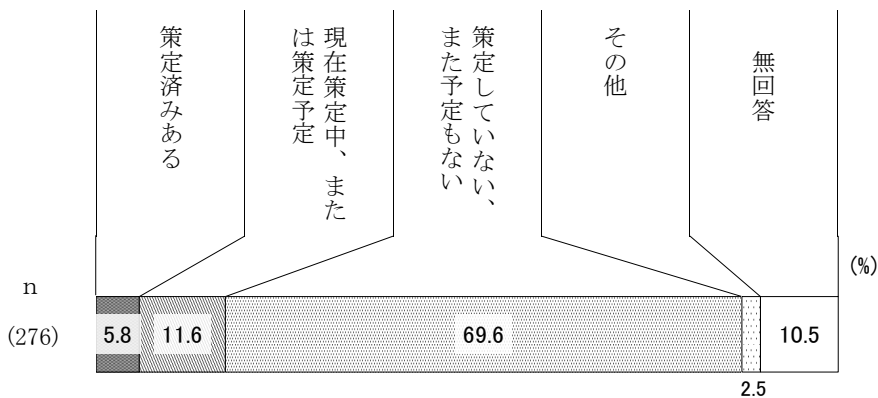


両立支援制度を設ける上で一番重要なこととしては、「企業の経営状況」(23.2%)が2割台で最も高くなっています。次いで、「行政の経費補助」(18.5%)などが続いています。

4. 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定状況

◆ 一般事業主行動計画の策定状況

問19 貴事業所の一般事業主行動計画の策定状況についてお答えください。(〇は1つ)



一般事業主行動計画の策定状況は、「策定済みである」(5.8%)と今後策定予定の「現在策定中、または策定予定」(11.6%)を合わせても17.4%にとどまっています。

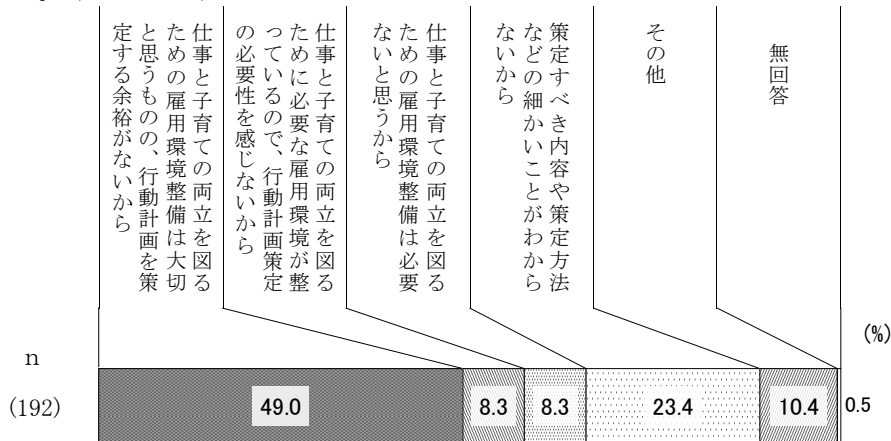
● 従業員規模別の策定状況

[上段：回答数、下段：割合（%）]

	調査数	策定済みである	現在策定中、または策定予定	予定もしていない、また策定していない	その他	無回答
1～10人未満	103	1	8	79	3	12
	100.0	1.0	7.8	76.7	2.9	11.7
10～30人未満	99	3	15	72	2	7
	100.0	3.0	15.2	72.7	2.0	7.1
30～50人未満	33	4	4	21	1	3
	100.0	12.1	12.1	63.6	3.0	9.1
50～100人未満	16	2	2	9	-	3
	100.0	12.5	12.5	56.3	-	18.8
100～300人未満	8	2	2	4	-	-
	100.0	25.0	25.0	50.0	-	-
300～500人未満	2	1	-	1	-	-
	100.0	50.0	-	50.0	-	-
500人以上	3	2	-	1	-	-
	100.0	66.7	-	33.3	-	-

◆ 一般事業主行動計画を策定していない・予定もない理由

問19-1 <策定していない、また予定もない>と回答した方に、その理由についてお答えください。(○は1つ)

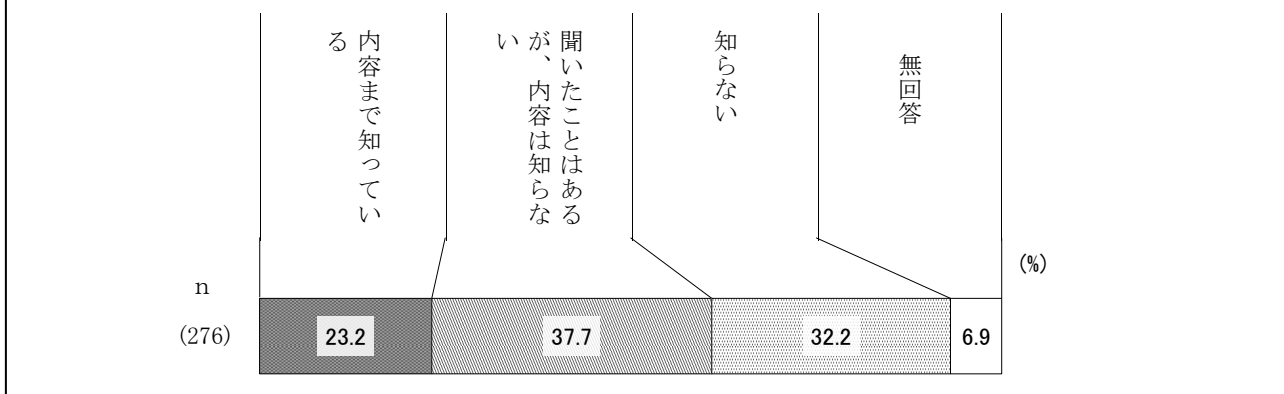


問19で「一般事業主行動計画の策定をしていない、また予定もない」と回答した事業所に理由をたずねたところ、「仕事と子育ての両立を図るための雇用環境整備は大切と思うものの、行動計画を策定する余裕がないから」（49.0%）が約半数を占めており、意識はあっても行動に移せるまでには至っていない状況となっています。

5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

◆ 「仕事と生活の調和」（ワーク・ライフ・バランス）という言葉の認知度

問20 「仕事と生活の調和」（ワーク・ライフ・バランス）という言葉をご存じですか。
 (○は1つ)

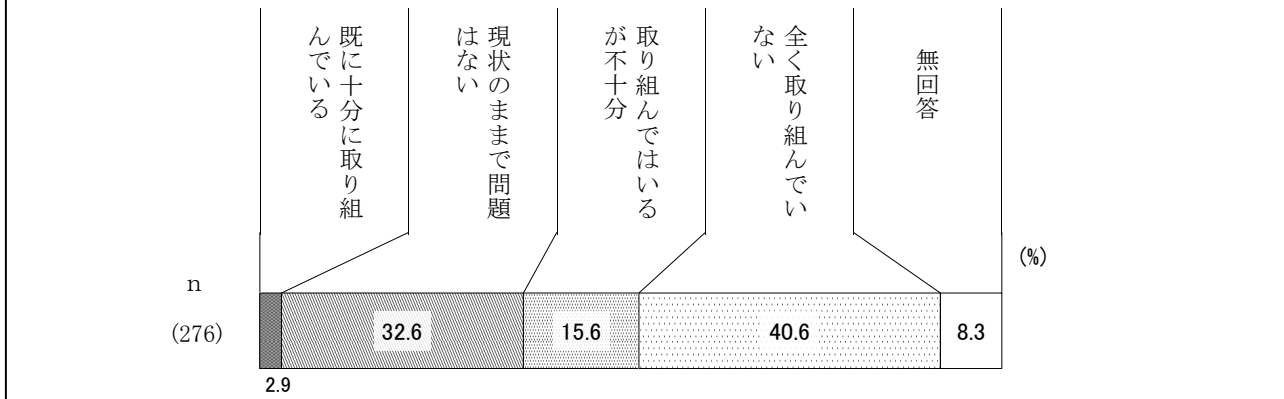


「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度は、「内容まで知っている」（23.2%）は2割強となっており、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（37.7%）を合わせた、言葉自体の認知度は、60.9%となっています。

◆ ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

問21 貴事業所のワーク・ライフ・バランスへの取り組みについて、どのように認識していますか。
 現状及び今後の必要性について、貴事業所の考えに、最も近いものをお答えください
 (○は1つ)

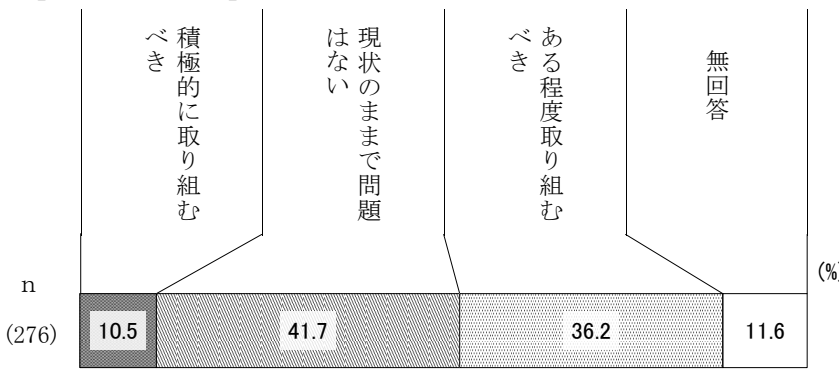
【現 状】



ワーク・ライフ・バランスへの取り組み認識については、「全く取り組んでいない」（40.6%）が4割強と最も高くなっており、次いで「現状のままで問題はない」（32.6%）となっています。

問21 貴事業所のワーク・ライフ・バランスへの取組みについて、どのように認識していますか。
現状及び今後の必要性について、貴事業所の考えに、最も近いものをお答えください
(○は1つ)

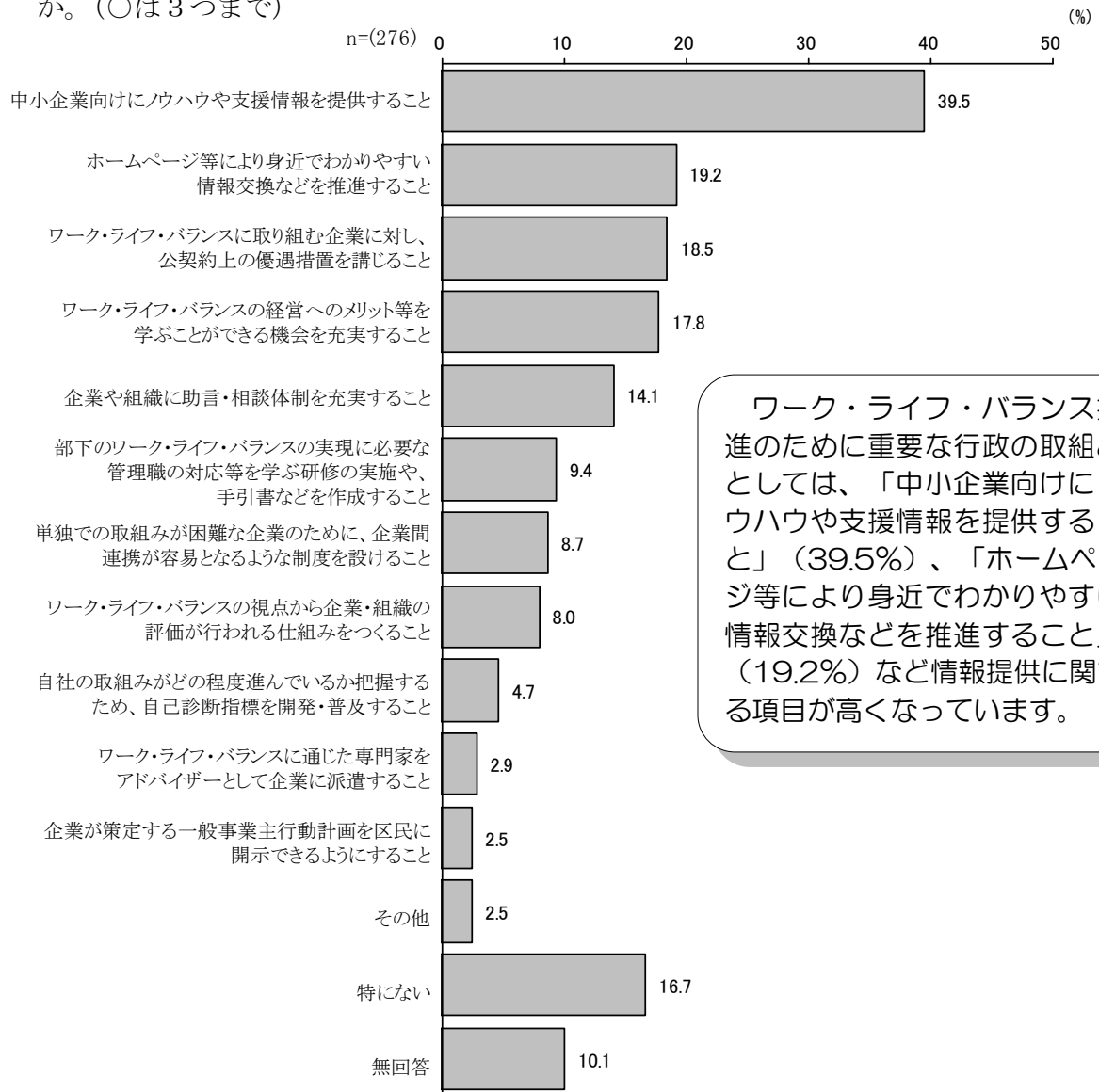
【今後の必要性】



ワーク・ライフ・バランスへの取組みの今後の必要性としては、「現状のままで問題はない」(41.7%)が最も高くなっているのに対して、「積極的に取り組むべき」(10.5%)、「ある程度取り組むべき」(36.2%)という認識もあわせて約半数程度みられます。

◆ ワーク・ライフ・バランスを推進するために重要な行政の取組み

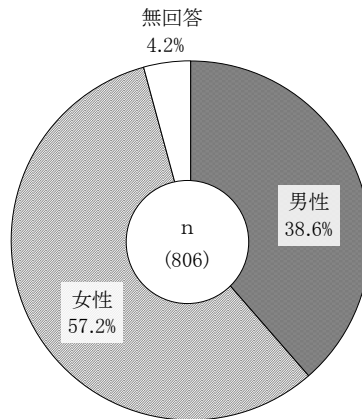
問24 ワーク・ライフ・バランスを推進するための行政の取組みとして、何が重要だと思いますか。(○は3つまで)



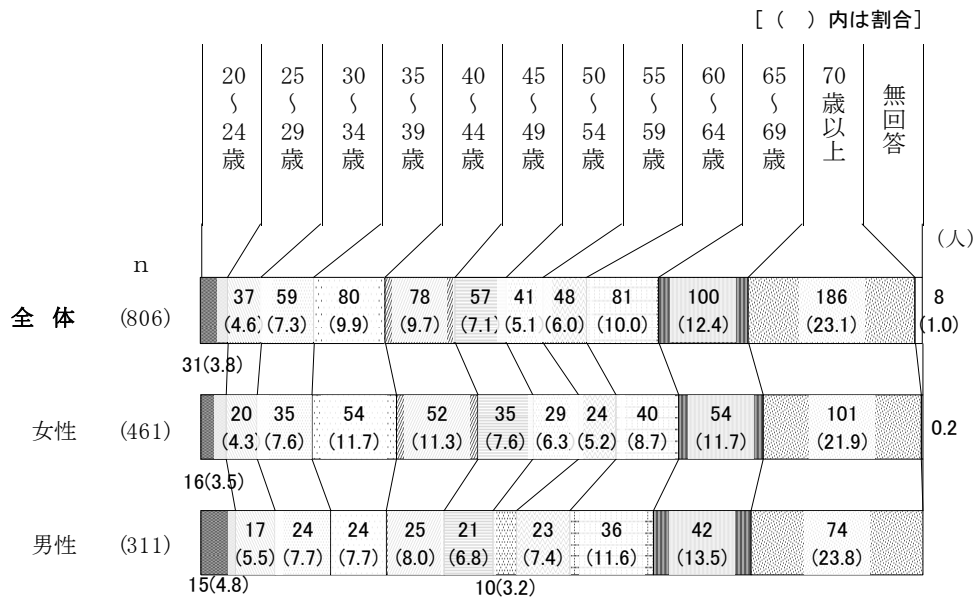
ワーク・ライフ・バランス推進のために重要な行政の取組みとしては、「中小企業向けにノウハウや支援情報を提供すること」(39.5%)、「ホームページ等により身近でわかりやすい情報交換などを推進すること」(19.2%)など情報提供に関する項目が高くなっています。

【区 民】

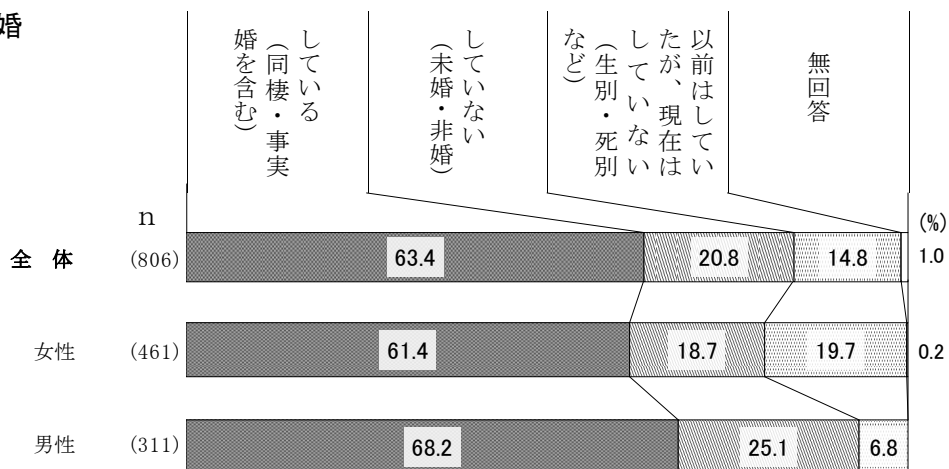
① 性別



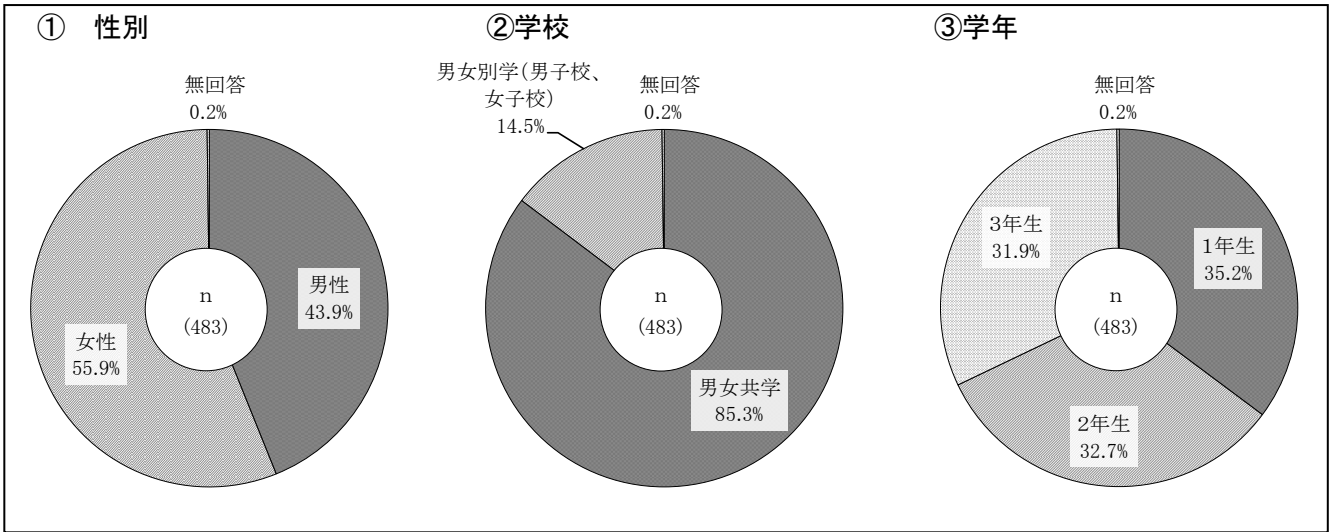
② 年齢



③ 結婚



【中学生】



【事業所】

